ザ・AZABU

Community Information Paper
No.67 March 3, 2025
発行／港区麻布地区総合支所
編集／ザ・AZABU編集室　〒106-8515 東京都港区六本木5-16-45
電話／03-5114-8812　ファックス／03-3583-3782
暮らしの疑問は、「みなとコール」でお答えします。電話／03-5472-3710

麻布地域の人々が取材 編集する地域情報紙

スタッフ出来楽斗さん

スタッフ前島壮太さん

編集委員が行く！ あざぶ食遊記 7

麻布支所の2階で森林浴
HINARI CAFE 麻布 Grand Open

2024（令和6）年9月12日 港区麻布地区総合支所2階に素敵なカフェがオープン

入口でメニューを見ていると、笑顔で「いらっしゃいませ、こんにちは」。キャッシュレス決済可能な券売機での注文をサポートしてくれた。コーヒーの香りに誘われ中に入ると、窓いっぱいの外の植樹を通してたっぷりと陽が差し込み、森の中の秘密の場所を見つけたような、そんな心地良さに包まれた。椅子とテーブルは車椅子やベビーカーでもすんなり入れるよう、ゆったりと配置されている。

ここHINARI CAFE 麻布では障害のある方“スタッフ”とスタッフの業務支援者“ジョブサポーター”が働いていて、彼らの程良い距離感のサービスに心が和む。

お弁当

ネギ塩焼き弁当

野菜たっぷり＆塩分控えめ、栄養バランスのとれたお弁当は日替わりで丼物2種類、お弁当タイプ2種類の4種類。この日のメニューの一つ“ネギ塩焼肉弁当”を店内の電子レンジで温めていただき食べてみた。さっぱり目の焼肉の香り、塩味の効いた柔らかいお肉、付け合わせの野菜は個々のうまみがしっかりと感じられた。お弁当は午後1時には売り切れることもある。次週のメニューは毎週木曜日には入口に置かれるので要チェック。スタッフの前島壮太さんによると、チキン系とハンバーグが人気とのこと。

麹焼鳥の三色丼

コーヒー

エクアドル産とタイ産の豆を50%ブレンドした“ひなりブレンド”をコーヒーブリューワー（複数杯淹れるための機械/ドリップ式）で淹れている。「ジューシーなグレープフルーツのフレーバーとアーモンドのような香ばしさ」とのご紹介。苦味、酸味は喧嘩せずまろやか、適度なコクがあり、おかわりが欲しくなるあと味だ。アイスコーヒーの氷は、溶けても味が薄くならないようコーヒーを凍らせている。こだわりのオーガニックシュガーシロップは、さらっとした柔らかい甘さだ。

また、コーヒーは豆と粉、一杯毎のドリップ用を販売している。

2024年9月には、スタッフの出来さんも参加した本社オフィス内HINARI CAFEチームが「チャレンジコーヒーバリスタ（障害のある方達のバリスタコンペティション）」で、この大会用にブレンドした“奏”がブレンド審査1位を獲得。残念ながら麻布ではいただけない。

和紅茶～日本で作っている紅茶

静岡県牧之原市生産の香り立つ紅茶。一瞬で気持ちが落ち着き、飲みやすい。ミルクが入った和紅茶オレもお好みで。

おやつ

就労支援事業所でつくられている、少しつぶが残っている手作りのどら焼き、手焼きの優しい噛みごたえのせんべい、ふんわりチョコマフィン。素材にこだわったパウンドケーキはしっとり食感で季節毎に味が変わる。前島さんによるとコーヒーと一緒にどら焼きがいち推しだそう。

運営するのは「CTCひなり株式会社（略称:ひなり）」

IT企業「伊藤忠テクノソリューションズ株式会社」の特例子会社。障害のある方が安心して働ける場、能力を発揮できる環境を提供し、彼らのできる仕事を増やしている。ほっこりするHINARI CAFE 麻布のロゴもひなりの新たな仕事として、デザイン担当スタッフ（精神障害者）が考案したものだ。HINARI CAFE 麻布でも、ジョブサポーターが注文とお渡しのミスなどが起こらないよう細心の注意を払って仕事の流れを工夫している。

ジョブサポーターの稲山莉奈さんは、「スタッフの成長が見られると感動します。とてもやりがいのある仕事です」と語った。

今後

ひなりは静岡で契約農家からの農作業請負にも取り組んでいるので、HINARI CAFE 麻布にて新鮮な野菜の販売を検討中とのこと。前島さんは、「元気で笑顔あふれる陽だまりのようなお店にしたいです」と笑顔で話してくれた。

“ひなり”は“日々成長する”という思いが込められているそう。ジョブサポーターとスタッフの、共に成長し合うという信頼関係がこの優しい空間を生んでいると感じた。

●HINARI CAFE 麻布
https://hinari.ctc-g.co.jp/special/cafe_azabu
〒106-8515 東京都港区六本木5-16-45 港区麻布地区総合支所2F
営業時間：月～金　11:00～16:00　定休日：土・日・祝日
電話／03-6441-0304

（取材／Sumiko、飯泉千種、高柳由紀子　文／Sumiko）

奉祝！「麻布十番酉の市100周年」

麻布十番で行われている「酉の市」をご存知でしょうか？
地域の人々の期待から街ぐるみで始まり、令和6(2024)年には100周年を迎えた伝統行事。
その由来と「麻布十番酉の市」について、十番稲荷神社の神職、吉田貴喜さんと渡瀬恭孝さんに伺いました。

奉祝：謹んでお祝いすること

神社では社務所で熊手を授与

「麻布十番酉の市バザール」のお知らせが、毎年「十番だより」11月号のP.2に掲載

露天商は毎年、鳥居の西側に出店

鳥居の右側の提灯には氏子崇敬者達の名前がズラリ。階段の左右には「奉納　酉の市百周年記念」の赤いのぼり

鳥居の左右には案内板

拝殿の上部には「酉の市祭」の提灯

通りに沿って出店がズラリ

「酉の日」とは何でしょう？

日本の暦には、年・月・日・時刻・方向を象徴する12匹の動物=「十二支」が書かれ、子、丑、寅、卯、辰、巳、午、未、申、酉、戌、亥の順で一巡します。

例えば、今年の1月1日は「午の日」となり、3日後の1月4日が「酉の日」でした。

カレンダーには載っていないので、スマホ等で検索してみましょう。

「酉の市」とは何でしょう？

「お酉様」とも言われ、「日本武尊*」や「天日鷲命」を祀る神社で11月の「酉の日」に「商売繁盛」や「家内安全」を願って立てられる「市」のこと。

「市」を「酉の日」にした由来は「日本武尊が東征での戦勝の祈願をした日」や「お礼参りをした日」または「命日」等あります。**「本酉」**と呼ばれる足立区花畑(旧、花又村)の「大鷲神社」が発祥とされ、元は応永年間(1394～1428)に花又村の農家が地元の「鷲大明神」に一年の収穫を感謝する祭りが、やがて熊手や他の農具などを売る「酉の市」に変わったとのことで、江戸時代には大変賑わい、今では神社そのものも「花畑おとりさま」とも呼ばれています。

「関東三大酉の市」として有名なのが、浅草の鷲神社・長國寺、新宿の花園神社、府中の大國魂神社です。

来年の準備をするための年末の「歳の市」でもある酉の市ですが、少し早い11月に開かれたことが、せっかちな**「江戸っ子気質」**に合ったのかも。

12日毎に巡って来る「酉の日」は、11月に2回の年と3回の年があり、「麻布十番酉の市　100周年」となった昨年は5日(一の酉)、17日(二の酉)、29日(三の酉)と、11月の酉の日が3回あった年でした。

楽しみ方は、夕方から神社にお参りし熊手を買って、屋台グルメを味わうことでしょう。

*「日本書紀」では、第十二代景行天皇の皇子で、九州から東北まで遠征し戦い、平定した伝説上の人物。

なぜ「熊手」が売られるようになったのでしょう？

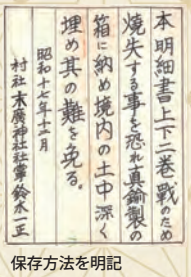
- 物を掻き集める農具である熊手がのちに「福を掻き集める」象徴とされ、熊手の内側に「縁起物」のおかめ、小判、俵、松竹梅、ほうき(はきこむ道具として)等も付けられ、業界では**「かっこめ」**と呼ばれています。
- 昔は細くて串のような物もあり、襟元や髪にさして「福を掻き集めながら帰る」粋な方も。
- 社務所ではお札を付けてシンプルな飾りの小(幅20cm×長さ25cm)、中(幅40cm×長さ87cm)、大(幅50cm×長さ95cm)等があり、露天では手のひらサイズの物から、豪華な飾り付けで抱えきれない程の大きさの数十万円の物まで様々あります。
- 買い方として「前年より大きい物を」とも言われますが、ここでは「前年と同じ大きさ」「初心に帰って、一番小さな物」等、皆さん自由に選んで買われています。
- 神社では10月に入ると毎年1,200体を仕入れ準備を始められるそうです。
- 販売時間は、露天の熊手商が飾り付けを始められる午前9時から午後11時まで。

『末廣神社明細書』下巻

末廣神社明細書　下巻　正本

幅60.6cm、縦106cmの大立て札を神社の前、一之橋の角、六本木角の3箇所に

麻布十番の街中、赤い点線が提灯を掲げられた場所



保存方法を明記

表紙 渡瀬さんがスキャニングされたデータで復刻版を製本

「お稲荷さん」が「酉の市」？

「麻布十番商店街」の名物「団子」、ぜひ熱々をほおばって！

そもそも「十番稲荷神社」は、旧坂下町41(現、麻布十番2丁目4)にあった「末廣神社」と、旧永坂町43(現、麻布十番1丁目3)にあった「竹長稲荷神社」が昭和20(1945)年4月15日の空襲で焼失し、共に昭和25(1950)年6月復興土地区画整理により現在の場所に換地され、のちに合併・改称してできた神社。末廣神社から「酉の市」も引き継がれました。

「酉の市」が始まった経緯は、昭和17(1942)年2月に当時の神職鈴木一正氏が上梓した**『末廣神社明細書』下巻**に記録されています。同年12月に上下二巻を真鍮の箱に密封し地中深く埋めたことで戦後も焼け残った貴重な記録です。

「青年会」のゲームやおもちゃに子供たちは夢中！

大正12(1923)年9月1日の「関東大震災」は甚大な被害をもたらし、麻布は他と比べて被害が少なかったとは言え、末廣神社は本殿と神楽殿が全壊し他も半壊状態でした。

綿あめは、お祭りの人気物

翌年2月、鈴木氏が町内の方と近所の東京府議会議員と3人での雑談中、「末廣神社では大鳥様を祀っているので、街の復興のために『酉の市』を始めれば活性化につながるのでは」と意見が一致し、11月2日(その年の一の酉)を目指して早速準備を始めました。

しかし露天商から「人出が見込めない」と出店を断られたため、地元の人達だけで屋台を出し、街ぐるみで酉の市を盛り立てることに。

神社は「損失が出た場合は全て神社が負担する」と決め、絶対に成功させるとの意気込みで臨みました。ビラ1,000枚とポスター 500枚を作り、3か所に大きな立て札を立て、麻布十番の街中に「酉の市提灯」を掲げてもらい、皆さんの協力のお陰で市は大賑わい。熊手は完売しました。

射的。懐かしい！

予想外の大成功に、「二の酉」から露天商も出店されるようになったとか。

「酉の市」は戦禍もコロナ禍も乗り越えて100周年を迎え、商店街の出店は戦後中断しましたが、昭和52(1977)年から**「酉の市バザール」**として復活し2027年には50周年を迎えます！　どんなお店が出るか楽しみですね。

香ばしいソースの香りが～、食欲をそそります！

こぼれ話

1. 今年の「酉の市」は２回です。お楽しみに！

「一の酉」 11月12日(水)、「二の酉」 24日(月)

2. 関西では「酉の市」より「十日えびす」=通称「えべっさん」

毎年1月9日～ 11日の3日間。「商売繁盛で笹持って来～い！」と威勢の良い掛け声が飛び交い、縁起物やお札が付いた「福笹」が売られています。

「えびすさま」を祀る「日本三大えびす」は、西宮戎、今宮戎、京都ゑびすです。

熊手を受け取ると、熊手商が火打石を「カチカチ！」と打って厄除けし、拍子木を「カンカン！」と鳴らすと、周りの人が一斉に「ヨオ～！」と声を出して皆で「シャシャシャン、シャシャシャン、シャシャシャン、シャン！」と十締めの手打ちで感謝し、思わず笑顔があふれます

露天商では様々な熊手が 盛りだくさん

お願い!!

前年買った熊手は、必ず買った所へ返しに行ってから新しいものを買って下さい。

十番稲荷神社
港区麻布十番一丁目4-6　　03-3583-6250

●参考資料
「十番稲荷神社」https://www.jubaninari.or.jp
「大鷲神社」https://www.ootori-jinja.or.jp
「初めてでも満喫できる酉の市の楽しみ方」http://www.jinjya.com

（取材・文／加生美佐保、加生武秀）

シンガポール共和国
面積：約720平方キロメートル（東京23区よりやや大きい）
人口：約564万人（うちシンガポール人・永住者は407万人）（2022年）
言語：国語はマレー語。公用語として英語、中国語、マレー語、タミール語
元首：大統領（任期6年。ターマン・シャンムガラトナム大統領は、2023年9月、第9代大統領として就任）
議会：一院制。選出議員数93（任期5年）（与党：人民行動党83議席、野党10議席）

参考：外務省ホームページ
https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/singapore/data.html
取材／シンガポール大使館

Singapore

大使を訪ねて
麻布の"世界"から

「夢繋ぐ未来へ」に向かって さらに進化していくシンガポール

坂の多い麻布・六本木エリアの中でも急坂の一つ、鳥居坂の坂上、閑静な住宅街に立地するシンガポール共和国大使館。日本人の海外旅行先でも人気は高く、年間約75万人が訪問しています。2023（令和5）年に赴任されたオン・エン・チュアン（Ong Eng Chuan）特命全権大使（以下大使と表記）に、より深いシンガポールの魅力を伺いたく、大使館にお邪魔しました。

1 多民族国家のシンガポールの子どもたち。授業は公用語の英語で行われる。
2 シンガポールの象徴「マーライオン像」は国内に6体ある。こちらが最も有名なマーライオン公園にある像。
3 シンガポールの中心地は美しく整備され、最先端のテクノロジーと世界の金融市場の中心となっている。
4 観光客の憧れ、マリーナベイ・サンズの150メートルの高さにあるインフィニティプール。シンガポール市街の素晴らしい眺望を独り占めできる。残念ながら利用できるのは宿泊者のみ。
5 英国人作家で「月と6ペンス」などで知られるサマセット・モームが好んで宿泊したコロニアルスタイルの、シンガポールを代表する高級ホテル「ラッフルズホテル」。
6 シンガポール唯一の世界遺産「植物園」にも是非足を向けてほしい。
7 世界中にあるチャイナタウン。
8 サルタンモスクがそびえるアラブストリート。
9 リトルインディア。歩くとスパイスの香りが。

国際化が着実に進んでいる日本に期待

大使の初来日は1988（昭和63）年、1年目は日本語の学習、その後東京工業大学で工学士の学位を取得された。当時の日本の印象を伺うと

「来日当時、日本語は挨拶程度で、周囲に外国人もいなくて、英語で質問すると、逃げられてしまった経験が何度もありました」と、流暢な日本語で応えて下さる。物価の高さに驚いたとも。

1996（平成8）年に外交官として最初の赴任の後、2005（平成17）年から3年間、大使館で首席公使及び公使参事官を務められた。そして今回2023年より現職に就かれている。37年を経て、日本の変化をどう感じられているのだろう。

「物価はさほど上昇していないという印象。30年前は外国へ行く日本人が多かったが、最近は逆傾向ですね。外国人に対しての抵抗力（ハードル）が低くなったと感じます。日本はようやく国際化してきたなと思います」

それに伴い、日本がこれから直面するであろう他民族との関わりについては、シンガポールがよい見本になるのではと、大使。

多民族国家に学ぶ興味深い政策とは？

「シンガポールは中華系75%、マレー系17%、インド系8%の人口比で構成されています。政府は平和的共存を進め、公共住宅・使用言語の2大政策など融合政策を積極的に導入して、成功しています」

具体的には国土の狭いシンガポールは公共住宅が多く、国民の85%が住む。居住者は人種間の理解を深めるために、入居は政府が定めた民族割合を考慮して、多民族が住むことを国策としている。

また、シンガポールの公用語の一つが英語である点も、民族間の争いを防ぐため中立的な言語を採用した結果だという。子どもたちの教育の場でも授業は英語だ。日常では英語に中国語やマレー語が混合した独特の言語＝シングリッシュが使われる。大使館でも業務は英語だが、プライベートはシングリッシュでやり取りするそうだ。

港区にはお気に入りスポットがいっぱい

大使の日常生活を伺ってみた。大使館内の大使公邸に夫人とお住まいで、日本で生まれたお嬢様は母国で暮らしている。ご夫妻で六本木周辺のウォーキングを楽しんでいて、お気に入りのコースは「鳥居坂を下り赤羽橋、東京タワー経由、ロシア大使館へ。その後飯倉片町交差点経由で公邸に戻るまで54分」とにっこり。一人で同じコースをジョギングされるとか。有栖川宮記念公園や上野公園も好きな公園とのこと。

「以前六本木通りにあったトンカツ屋が好きで、よく通いました」

大使の好きな日本食はラーメンとトンカツのようだ。「日本食は大好きですよ、納豆を除いてはね（笑）」

シンガポールに行ったら「ラクサ」は必ず食べて

多民族国家のシンガポールは、おすすめの料理がたくさんありそうだ。

「その通り。多国籍の料理が豊富に揃っています。シンガポールを知りたいなら、レストランもいいけれど、必ずホーカーでも召し上がってください」

ホーカーとは政府が衛生面を考えて作った屋台街のこと。市民の台所代わりと言って良いほどそこかしこにあり、旅行者も気軽に庶民の味をリーズナブルに体験できる。大使のいち推しは「ラクサ」。スパイスとフルーツの酸味などを活かしたスープで食べる麺料理で、日本のラーメン感覚。お店ごとに味が違うので食べ比べも楽しめそうだ。

10 屋台が1箇所に集まった庶民のためのフードコート、ホーカー。旅行者も安心して楽しめる。
11 大使の大好物「ラクサ」は、シンガポールの国民食と言われるほどのソウルフード。出汁やトッピングなど店ごとに異なるスパイシーな麺料理。
12 日本人にもおなじみの、シンガポールを代表する「チキンライス」。茹でたチキンと、そのスープで炊いたご飯をいっしょに食べる。
13 蟹を丸ごと使った高級料理「チリクラブ」。トマトソースとスパイスでからめている。

最後にシンガポールの観光スポットを伺った。

「チャイナタウンやリトルインディアなどを歩いて、多民族の文化を感じてください」

安全安心な国、最先端のハイテク風景と古き良き佇まいの散策も楽しめ、また緑豊かな自然との出会いもあり、見どころも多い。

「シンガポール人の日本への渡航者数は右肩上がりで増えています」と、大使から嬉しいコメントが。お互いの国際親善がますます深まればいいなと、改めて思った実り多いインタビューとなった。

2025年4月13日～10月13日、大阪 夢州（ゆめしま）で開催の「2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）」に同国は「ゆめ・つなぐ・みらい」をテーマに出展。どんな内容か期待が膨らむ。

港区六本木5-12-3
HP https://www.mfa.gov.sg/Overseas-Mission/Tokyo/JP/Tokyo-JP

●写真提供／1～13 シンガポール大使館 （取材・文／飯泉千種、井口真莉奈、Mai S.、高柳由紀子）

まちのお役だち 17 幼児の遊び場

夢の守りびとたち、全力で奮闘中

麻布子ども中高生プラザの〈こそだてプログラム〉と〈幼児プログラム〉

港区立麻布子ども中高生プラザは、今年度で10年を経過します。利用者も累積100万人に達しました。港区の指定管理者制度によって、現在の事業者（公益財団法人児童育成協会）が運営しています。〈児童館〉・〈こそだてひろば〉・〈学童クラブ〉の3つの機能をあわせもち、赤ちゃんから高校生世代まで利用できます。ここは、そうした子どもたちの夢を育み、幸せを願う大人たちもつながり合える施設です。年齢に応じた5種のプログラム*1があり、そのうちの〈こそだてプログラム〉と〈幼児プログラム〉を半年にわたって取材しました。

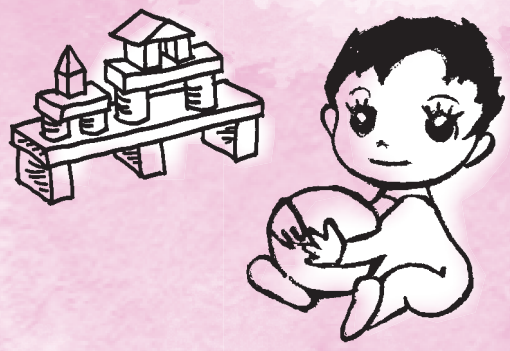
みんなで本気のバドミントン

昨年8月に始まった《LET'S羽球！パパママリフレッシュタイム》は、プラザを利用する幼児を連れたママさんたちの要望で実現したプログラムです。プラザのアリーナ（室内運動場）で90分間のバドミントンの練習とゲーム、幼児は参加者が交替で見守ります。バドミントン経験のあるスタッフも一緒に幼児を見守りながら、コーチもされていました。

「私は〈児童館〉スタッフですが、6歳ごろからずっとバドミントンをやっていたので、こういう企画があると館長から相談を受けた時に、『やりたいです！』と立候補しました。皆さんはゲームを楽しむだけでなく、基本の練習もされています。プログラムの進め方も、やっと落ち着いてきたかなと思います。急に泣き出しちゃう子がいると、ついついスタッフとしてそこへ入っていってしまいます。せっかく仲間がいるので、ママたちと一緒に見守っていけたらいいなと思います」（木下優菜さん）

木下優菜さん

昨年4月に採用された新人と聞いています。得意なバドミントンの腕を買われて、新しいプログラム立ち上げのサブ担当になりました。



地域の声を拾って

アリーナは、プラザ主催の事業以外は、利用者がルールを守りながら自由に運動やゲームを楽しめる場所です。《LET'S羽球！パパママリフレッシュタイム》は、そうした利用者の声から始まりました。

「最初、ここの利用者さんで、バドミントンをお好きなママさんから、なんかこういう場所が利用できないかなあという要望がありました。同じ幼稚園のお仲間で、以前から有栖川宮記念公園に集まって活動していたそうです。プラザでもコロナ前に利用者のお仲間が運動をして、その間ほかのママさんたちが子どもを見守っていたことがありました。今回も、ママさんたち主体で運営が進めていけるお仲間だと思いました。私のいる〈こそだてひろば〉は、乳幼児親子が自由に遊べる場所です。アリーナを定期的に利用でき、幼児を持つ子育て仲間も増やしていきたいという利用者の要望に、館全体で応援しようという方向に動いたという感じです」（佐藤美葉さん）

プログラムが始まってからは、飛び入り参加のパパやママも加わっています。今はバドミントンだけなので、「バドミントンやりませんか？」と声かけすることになります、と佐藤さん。でも、「これからはたまに内容を変えてもやりたいね」ともおっしゃっていました。

成長して幼児がいなくなれば親子でプラザを利用する機会も減ります。参加者の輪を広げることが、地域との協働による活動をさかんにしたいという想いをつなげることになりそうです。

未就学児のいるプラザ利用者であれば、当日お子様がいなくても参加可能だそうです。ぜひ館内の案内に注目してください。

佐藤美葉さん

利用者との新しい交流が、子どもたちの可能性を広げるといい、ほかの親どうし、子どもどうしが楽しく交流してもらえるように、広い視野から見つめながら、ご自身も子どもたちを相手に奮闘されていました。

子どもの夢を応援する

〈児童館〉も〈こそだてひろば〉も、子どもが自分のやりたいことを見つけられるように事業をくふうしています。将来のためだけでなく、今やりたいこと、子どもにしかできないことを大切にして応援しています。そこから夢が生まれれば、それを実現するためのプロセスを応援します。子どもたちだけでなく、親も、地域の方も加わることで選択肢や可能性を広げられます。

〈こそだてプログラム〉の1つである《ASOBOO Time》は、不定期ですが月に1回実施されるもので、6か月から2歳11か月の乳幼児親子が対象です。親子のふれあい、親が子どもと向き合う時間を演出しています。ふれあい遊び、素材遊び、パネルシアターなど、月ごとにさまざまな遊びを複数の親子で一緒におこないます。昨年春に取材させていただいたのは、新聞紙を使った「素材遊び」でした。

「親が子どもと向き合う時間を大切にしてほしいという目的で、家庭ではできないこと、他の親子との交流をはかりながら、ひとときを楽しんで過ごしてもらっています。イベントでの出会いだけでなく、〈こそだてひろば〉での交流のきっかけにもなっています。お子さんの年齢の幅が広いので、その時の参加状況を観察して、内容を臨機に調整しています」（佐藤美葉さん）

素材遊びは、日常身の回りにあるものの感触や大きさを体感したり、家庭での親子遊びのヒントにもなるようにメニューが考えられています。プログラムは行き当たりばったりのように見えて、しっかりと流れを作って運営されていました。ゲームで切り刻んだ新聞紙をゴミ袋に片付けることまで、楽しい遊びになっています。

定例の《おはなし会》は〈幼児プログラム〉ですが、小学生も加わった子ども中心のプログラムです。水曜と土曜にほぼ定期で開催されます。プラザの中央、休憩スペースにパネルを立て、マイクをセットし、床に客席となるマットを敷いています。パネルシアター・紙芝居・絵本を読む・いろいろ混じったおはなし玉手箱などを集まった全員で楽しみます。

未来への手紙

〈こそだてプログラム〉の一番人気は《身体計測》です。3歳くらいまでが対象で、募集を開始するとその日のうちに予約が満員になることも。会場となっているのは、休憩スペース正面の明るく広い部屋〈こそだてひろば〉。計測の日は、申し込んだ親子が子どものペースに合わせてやってきます。受付を済ませると、子どもの身長・体重をはかり、手形と足形をとります。毎日子どもに向き合っていても、成長を実感するのはこういうときかもしれません。病院や保健所でもはかれますが、いつも遊びなれている雰囲気の中なので、ほとんどの乳幼児がおとなしく計測器械にのっていました。時には、初めての経験に大泣きする子もいますが、熟練のスタッフがママと協力して無事に計測完了。そして、拍手。結果を書いたカードに、赤いスタンプで手足の形を押したら終了です。カードはその子の成長の記録、未来への手紙です。計測が終わると、子どもを遊ばせながらのおしゃべりタイム。取材した日は、保健師さんもいて、個別の相談に応じるほか、話の輪に加わっておしゃべりも和やかに進みます。20組もいるとにぎやかですが、時間はとても静かに穏やかに過ぎていきました。

高齢者世代も夢に参加して

麻布地区には、小学校就学前の子どもたちを対象とする保育園26園・幼稚園10園、託児施設2か所、そのほか親子で利用する子育てひろば3か所、さらに公園11、児童遊園15、遊び場が2か所あります*2。子育て世代の親子をサポートする〈こそだてひろば〉は、地域の幼児とその保護者にとって、気軽に利用でき、新しい発見や出会いのある場所になっています。

子育て世代は、若いパパママだけではありません。幼児の孫を預かる高齢者も地域には大勢いることでしょう。孫を連れてプラザへ足を運びませんか。ボランティアとして子どもたちの夢をサポートしてみませんか。今回取材した木下優菜さんは、《おもちゃの病院》というプログラムも担当しています。壊れたおもちゃをなおしてもらいたい子どもがやってきます。修理するのはそういう技術と情熱を持ったボランティアです。さらに折り紙教室や絵本の読み聞かせもボランティアが担当しています。

こうした色とりどりの行事やプログラムで、子どものやりたいこと、その夢が実現できる活動を応援しています。さらには、保護者のつながりの輪が広がるきっかけにもなっています。学生ボランティアもいます。幼児の遊び場として、子どもの居場所として、さまざまな年代のふれあいの場として地域に開かれた施設です。

地域とともに

翠尾由美館長は、「地域にいる子どもたちはもちろん、さまざまな方々の居心地の良い場所でありたい」とおっしゃっていました。

ボランティアは新しい風を吹き込んでくれる貴重な存在です。子どもたちに新しいものとの出会いを提供できるのがボランティアの良いところでしょう。地域の方と一緒に活動する機会も年々増えてきたそうです。地域にふたつある町会のお祭り、PTAや青少年対策高陵地区委員会とも交流しています。

「地域の方もこちらのプログラムに来て盛り上げてくださる。子どもたちが大人と触れ合う場にもなっています。地域の中で、顔の見える関係が増えていくんです。幼児親子だけでなく、いろんな世代や立場の方に来ていただいて、やりたいことを膨らませていきたいですね。ここは子どもたちの豊かな育ちを応援しています。体験が豊かであれば、心も豊かになると考えています。ホームページをご覧いただき、安心して足を運んでください。いつでも大歓迎です」

麻布子ども中高生プラザは、乳幼児から高校生世代までの夢を育む場所です。職員も、ボランティアも、利用者も、みんなが子どもたちの夢を育み、やさしく見守る仲間です。地域に開かれた広場、あたたかな居場所として、これからも協働の輪が広がることを期待します。

*1 プログラムはプラザが行なっている事業のことで、子どもの年齢に合わせて、こそだてプログラム・幼児プログラム・小学生プログラム・ティーンズプログラム・共通プログラムの5つに分かれています。

*2 令和6年12月現在。麻布地区総合支所まちづくり課提供資料によります。

取材／撮影協力

港区立麻布子ども中高生プラザ

住所／港区南麻布4-6-7
港区立ありすいきいきプラザ2階
電話／ 03-5447-0611
ホームページ　http://www.azabu-plaza.jp

（取材・イラスト／おおばまりか、樋口政則　文／樋口政則）

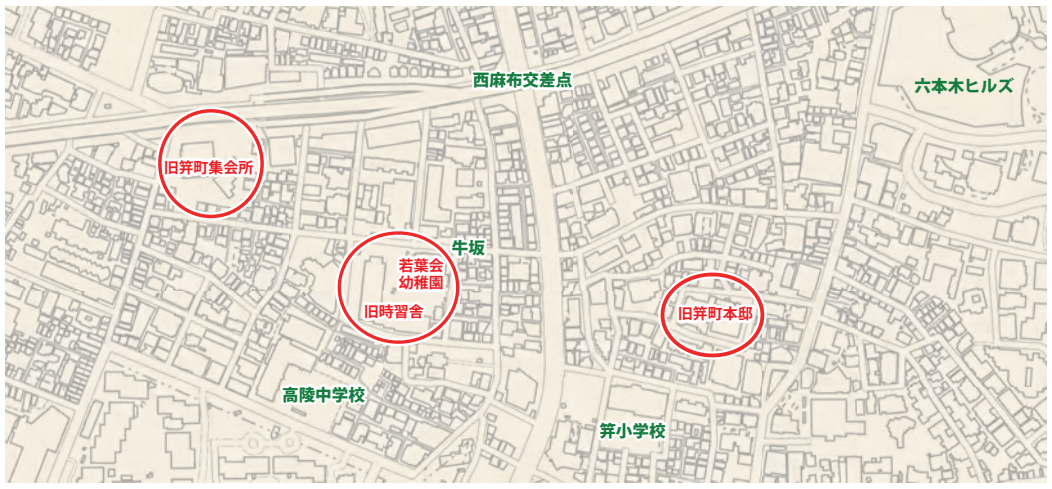
麻布の軌跡

三井ゆかりの土地と建物（後編）—戦後の笄町本邸とその周辺—

2 清泉学寮

前編（本紙66号）に記載のとおり、戦前の六本木エリアには、三井一族や関連企業重役らの壮麗な邸宅が集積していたが、全て戦火で失なわれ、総領家本邸跡地は接収ののち米国大使館職員宿舎に転用された。戦後の財閥解体、華族制度廃止、公職追放、財産税支払と時代の荒波にもまれた当主三井高公（たかきみ）氏1が新しい本邸の場所に選んだのは笄町（こうがい）（現西麻布3丁目）。ここは明治期から子弟教育施設や集会・接待施設が置かれたなじみのある土地であった。

1 三井高公氏



子弟教育施設（時習舎、若葉会幼稚園）

政治家で三井の顧問でもあった井上馨は、早くから上流階級の子弟教育の重要性に着目して、明治30（1897）年に内田山（現元麻布3丁目）の自邸内に寄宿舎「時習舎」を開設した。皇族・華族を含む延べ約120名を受入れて教育していたが、自身の大病により明治45（1912）年3月に閉鎖を余儀なくされる。閉鎖の翌月に開設されたのが、三井の子弟教育施設「時習舎」である。牛坂中腹に約3,000坪の土地を購入して寄宿舎を建設、三井家の子弟を中心とする満10歳以上の男子がここに集められ、集団生活を送りながら心身の鍛練を図った。井上の教育方針とともに施設名も承継したのであろう。

時習舎はのちに「清泉学寮」2と名称を改め、テニスコートや弓道場などの設備も拡充するが、次第に在寮者が減少。寮生の年代も10代後半から20代に集中してゆく。その一方で昭和初期の三井11家（三井の資産と事業を共有する創業者の子孫）には幼稚園児の年齢にあたる子弟が増加していた。昭和4（1929）年、隣接地に現在も続く幼稚園「若葉会」を開園すると、昭和7（1932）年に清泉学寮を閉鎖して福利厚生施設「三友学舎」とした。

三友学舎跡地は、長らく地図に「港区保護樹林」と記される広大な空地で、昭和51（1976）年の笄小学校校舎建替時には児童の遊び場として無償で提供された（現在は麻布霞町パークマンション）。

集会・接待施設（笄町集会所）

笄町には三井の「集会所」もあった。集会所とは毎年正月に三井一族が集まり「家憲の朗読式」を行う場所であり、三井の理事会・重役会が定期開催される場所であり、賓客接待や従業員の福利厚生にも利用される重要な施設である。

最初の集会所は明治27（1894）年、有楽町に建設された。敷地面積3,700坪、広々とした庭園に床面積100坪を超える「旧館」と「新館」があったが、関東大震災で旧館が倒壊。その跡地には被災した三井系各事業会社の仮事務所が建設されることになり、有楽町は集会所としての役目を終えた（現在は東京ミッドタウン日比谷）。

新たな集会場は現在の六本木通りと日赤通り商店街の交差点付近に置かれた。大正8（1919）年と11（1922）年に購入していた隣接する2軒のお屋敷で、一方は小説家・翻訳家・ジャーナリストの黒岩涙香（るいこう）邸約1,400坪、もう一方は第18代内閣総理大臣寺内正毅（まさたけ）邸約660坪である。寺内邸内にはドイツ人建築家デ・ラランデの設計で明治44（1911）年に竣工した煉瓦造の洋館とこれに隣接する和館があり、まずはこの二棟を改修して集会所としての使用を開始。後の昭和4（1929）年には旧有楽町集会所に残っていた壮麗な「新館」を旧黒岩邸内に移築する。今井町の本邸と饗宴場、綱町別邸（現綱町三井倶楽部）とともに接客・饗宴の場となったが、戦時色が濃厚になると饗宴等は自粛となり、事務所への転用を余儀なくされ、戦火で焼失した（現在はパークウェルステイト西麻布）。

笄町本邸の土地

高公氏は終戦直後の仮住まいを経て、昭和25（1950）年に笄町の土地を購入。2年後に竣工した新本邸に移転した。敷地面積は1,200坪、戦前の今井町本邸の13,500坪とは比べようもないが、昭和初期に高級住宅地として分譲された「西竹一男爵*旧邸」のほぼ中央に位置し、四方を道路に囲まれた堂々たる一角である3。分譲地内の道路はカーブや行き止まりが配され、車もゆっくり走る静かな場所。すぐ近くには近代建築の名作、「アントニン・レーモンド邸**」もあった（現在はパークハウス西麻布）。

＊1932年ロサンゼルス・オリンピックの馬術競技で優勝、「バロン西」の愛称で知られる
＊＊聖心女子学院などを設計した建築家の自邸兼事務所、本紙No.22でも紹介

笄町本邸の建物

この新本邸は三井家に残る古い建物や部材を集めて作られた。1階の二間は明治30（1897）年に作られた京都油小路三井邸の奥書院の部材を使用、2階の仏間には祖父高朗（たかあき）作の龍の天井画、父高棟（たかみね）作の鳳凰の襖絵、廊下には三井銀行旧本館（第一国立銀行）のシャンデリアが飾られる。邸宅南東の和室「望海床」は高棟が晩年を過ごした大磯城山荘からの移築、土蔵は明治7（1874）年に清水組（現清水建設）二代目の清水喜助が日本橋駿河町に建てた三井越後屋の絹蔵である。三井家の歴史を大切に残した建物だ。

高公氏の他界後に解体の危機に見舞われたが、これを惜しんだ関係者の努力により、江戸東京たてもの園（東京都小金井市）に移築された4。園内では笄町集会所（旧寺内邸）を設計したデ・ラランデの自邸5と向い合う位置にある。これも何かのご縁だろうか。

5 デ・ラランデ自邸

六本木エリアの高台は、戦前から皇族・華族らの邸宅が多かったが、特に三井にとっては「生活の拠点」ともいえる地縁の深い場所であったことを再認識した。「なぜ三井は麻布の地を選んだのか」という今回解明できなかった問いは引き続き検討してゆきたい。

取材を通じて、寺内正毅・寿一父子、外交官の西徳二郎・竹一父子など、麻布に地縁のある歴史上の有名人と多く出会った。彼らのストーリーも今後紹介する機会があればと願っている。

●主要参考文献
『三井八郎右衛門高棟伝』財団法人三井文庫、1988
石田繁之介『三井の集会所 有楽町から札幌まで』日刊建設通信新聞社、1993
『三井不動産40年史』 1985
『江戸東京たてもの園 三井邸移築工事報告書（解体編）』文化財建造物保存技術協会、1994

●画像提供
公益財団法人 三井文庫 1 2、江戸東京たてもの園 3 5

（取材・文／八巻綾子）

3 移築前の笄町本邸

4 移築後の本邸（門柱は今井町から笄町を経て現在地へ）

都税事務所からのお知らせ

自動車の移転手続・廃車手続はお済みですか？

自動車税種別割は、毎年4月1日現在、自動車検査証（車検証）に登録されている所有者（割賦販売の場合は使用者）の方に課税されます。自動車を譲渡したときは移転登録、廃車したときは抹消登録の手続が必要です。令和7年3月末日までに管轄の運輸支局又は自動車検査登録事務所で手続をお済ませください。

お問合せ／東京都自動車税コールセンター　電話／03-3525-4066

引越しをしたときは、自動車の変更登録の手続が必要です

引越しをしたときは、管轄の運輸支局又は自動車検査登録事務所で自動車の変更登録の手続が必要です。手続が遅れますと、自動車税種別割の納税通知書が届かないなどのトラブルの原因となります。

やむを得ず手続が遅れる場合は、電子申請や電話等により、納税通知書の新しい送付先住所をお知らせください。

お問合せ／東京都自動車税コールセンター　電話／03-3525-4066

令和7年度定期課税分 自動車税種別割の障害者減免申請の受付を行っています

現在、新たに身体障害者手帳等の交付を受けた方、減免申請がお済みでない方を対象に、令和7年度分の自動車税種別割の減免申請の受付を行っています。

- **減免対象：**身体障害者手帳・精神障害者保健福祉手帳等をお持ちの方で、一定の要件を満たす場合
- **申請期限：**令和7年6月2日（月）

＊減免額には上限が設定されています。

主税局ホームページ

お問合せ／東京都自動車税コールセンター　電話／03-3525-4066

4月から固定資産税における土地・家屋の価格などがご覧になれます（23区内）

- **対象：**令和7年1月1日現在、23区内に土地・家屋を所有する納税者
- **内容：**所有資産が所在する区で課税されている土地・家屋の価格など(縦覧帳簿)
- **期間：**令和7年4月1日（火）から令和7年6月30日（月）まで（土・日・休日を除く）
- **時間：**８時30分から17時まで
- **場所：**土地・家屋が所在する区にある都税事務所

納税通知書は令和7年6月2日（月）に発送予定です。詳細は、東京都主税局HPをご覧いただくか、下記へお問い合わせください。

お問合せ／港区にある物件について 港都税事務所　電話／03-5549-3800(代表)

都税がスマートフォン決済アプリで納付できます

都税の納付にスマートフォン決済アプリを是非ご利用ください。アプリ内で納付書のバーコードを読み取るだけで、いつでも、どこでも、簡単に納付できます。

詳細は、東京都主税局HPをご確認ください。

主税局ホームページ

来所せずにお手続ができます

東京都主税局では、納税者の皆様が都税事務所等に来所することなく、郵送やインターネット等でお手続できる仕組みを設けております。郵送や電子による申告、申請・届出、キャッシュレスによる納税方法等をぜひご利用ください。

詳細は、東京都主税局HPをご覧ください。

主税局ホームページ

耐震化のための建替え又は改修を行った住宅（一定の要件を満たすもの）に対する固定資産税・都市計画税を減免します（23区内）

減免の期間と額は、以下のとおり

- **建替え：**新築後新たに課税される年度から3年度分について全額減免（居住部分に限る）。ただし、減免の対象となる戸数は、建替え前の家屋により異なる。
- **改修：**改修工事完了日の翌年度分から一定期間、居住部分で1戸あたり120㎡の床面積相当分までの税額を全額減免（※耐震減額が適用される住宅については、耐震減額適用後の税額を全額減免）。

減免を受けるには申請が必要です。詳細は、東京都主税局HPをご覧いただくか、下記へお問い合せください。

お問合せ／港区にある物件について 港都税事務所　電話／03-5549-3800(代表)

東京ゼロエミ住宅の新築に対する不動産取得税（家屋）を減免します（23区内）

減免の対象と額は以下のとおり

- **減免の対象：**一定の要件を満たす新築の東京ゼロエミ住宅
- **減免割合：**住宅に係る不動産取得税を最大で10割

減免を受けるには申請が必要です。また、この他にも、耐震化促進税制等、住宅を新築したときに軽減を受けられる場合があります。

詳細は、東京都主税局HPをご覧いただくか、下記へお問い合わせください。

お問合せ／港区にある物件について 港都税事務所　電話／03-5549-3800(代表)

麻布地区 地域事業

“ちょこっと立ち寄りカフェ”にお越しください

麻布地区総合支所では、地域の高齢者の皆さんが気軽に立ち寄って楽しく交流できる場所として、「ちょこっと立ち寄りカフェ」を開催しています。どなたでも気楽な雰囲気でお茶やコーヒーを飲みながら、おしゃべりや季節のイベントなどを楽しんでいただけます。

毎月、麻布地区のいきいきプラザ5館で開催しています。ぜひ、ちょこっと立ち寄ってみてください。地域のボランティアも皆さんのお越しをお待ちしています。

会場及び内容

なお、プログラムは変更することがありますのでご了承ください。
イベント、講座、ゲームなどを行っています。

◆飯倉いきいきプラザ　東麻布2-16-11		◆南麻布いきいきプラザ　南麻布1-5-26	
3/5（水）	みんなで歌おう	3/26（水）	春の花飾り作り
◆ありすいきいきプラザ　南麻布4-6-7		◆麻布いきいきプラザ　元麻布3-9-6	
3/13（木）	麻布を知ろう	3/22（土）	みんなで話そう第2弾
◆西麻布いきいきプラザ　西麻布2-13-3			
3/20（木）	お楽しみ企画		

＊4月以降の開催については、現在調整中です。決まりましたら、区のホームページ等でお知らせいたします。

時　間　毎回　午後1時30分から午後3時30分頃まで
対　象　どなたでも
参加費　無料
申込み　不要です。直接会場にお越しください。

お問合せ／麻布地区総合支所区民課保健福祉係
電話／03-5114-8822

令和6年度港区指定文化財に麻布本村町会 麻布氷川祭礼関連資料17点が指定されました

種 別　有形民俗文化財
名 称　麻布本村町会 麻布氷川神社祭礼関連資料17点
所有者　麻布本村町会
所在の場所　港区南麻布三丁目3番36号

麻布本村町会が所有する、麻布氷川神社の祭礼に関連する資料類です。江戸後期から昭和初期にかけての資料で、山車人形2体、高欄2基、飾り幕2枚、木造獅子頭1対、扁額2面、祭礼行列図扁額1面等からなります。

これらは祭礼巡行に用いられていましたが、現在では毎年9月の祭礼の時期に、町会会館に設けられた神酒所に飾られています。山車人形の素朴なつくりは地域的特色を反映しており、獅子頭の造作は丁寧で力強さが見られます。昭和10（1935）年の祭礼行列図からは、人形山車中心の祭礼から神輿中心の祭礼へと移行する様子や、獅子頭山車の巡行等、昭和初期の様子を知ることができます。

これらの資料は近世から近現代にいたる祭礼の変遷を示すものであり、麻布地域の信仰や民俗を知る上でも重要です。麻布氷川神社の氏子町である麻布本村町内に今日まで大切に伝えられ、現在も祭礼で使用されている点においても貴重な文化財といえます

なお、ザ・AZABU62号「町会・自治会元気だより 麻布本村町会」において、今回指定された資料等について取り上げています。

お問合せ／麻布地区総合支所協働推進課 地区政策担当
電話／03-5114-8812

港区麻布地区総合支所だより

「麻布坂カレー」ついに一般店舗で提供開始！

麻布の坂道の魅力を「カレー」という形で表現したプロジェクト「麻布坂カレー」は、麻布の地域文化や歴史を多彩な味わいで表現した新しい感覚のご当地グルメです。1月10日より、第1弾として選ばれた3店舗で提供が開始されました。

それぞれの坂道がもつ個性を味わいながら、心とお腹を満たす体験に、ぜひご期待ください。

提供店舗

サクラ咲くさくら坂カレー

提供店舗 元祖麻布ヨーロピアンカレー専門店「ピリピリ（PILIPILI）」
住　所 東麻布1-18-1

なだれ坂カレー

提供店舗 キーマカレー専門店「飛飛飛（びびび）」
住　所 西麻布1- 5 -23

仙台坂カレー

提供店舗 欧風カレーガヴィアルプラス麻布十番店
住　所 麻布十番1-9-9

引き続き「麻布坂カレー」参加店舗を募集中です！

お申し込みや麻布坂カレーの詳細はこちらから

お問合せ／麻布地区総合支所協働推進課　電話／03-5114-8812

区民参画組織のメンバーを募集します

新たな総合計画「MINATOビジョン」の策定に向けて、令和7年度にワークショップ形式で意見を交換し、麻布地区の地域事業に関する提言を取りまとめます。募集は20名程度です。

自分たちのまちを知り、よりよい地域とするために地域の活動に参加してみませんか？

活動日 平日夜間に、原則月1回程度です。
部会・分科会の活動によっては、土・日曜日等にイベントや取材を実施します。
活動期間は、令和7年4月1日～令和8年3月31日の1年間。

申し込み 申し込みフォーム、郵送または、ファックスで、住所・氏名・年代・職業（学校名）・電話番号（連絡先）を明記の上、3月17日（月）までに、麻布地区総合支所協働推進課地区政策担当へ。港区ホームページからも申し込めます。

抽　選 初めての人優先、年齢バランス等を考慮して抽選します。
※報酬・交通費の支給はありません。

お問合せ／麻布地区総合支所協働推進課
電話／03-5114-8812
FAX／03-3583-3782

申し込みフォーム

ザ・AZABUへのご意見・ご要望をお寄せくだサイ

住所・氏名・職業（学校名）・電話番号・ご意見・ご要望（日本語又は英語、字数・様式自由）を書いて、直接又は郵送・ファックスで、〒106-8515 港区六本木5-16-45 麻布地区総合支所 協働推進課 地区政策担当へ。

●電　話／03-5114-8812　●FAX／03-3583-3782

地域情報紙「ザ・AZABU」はホームページからもご覧になれます。

「ザ・AZABU」は英語版も4カ月後に発行しています。

買い物するなら地元の商店街で

フォローをお願いします！

麻布地区で開催されるイベントや地域の出来事など様々な話題をX（旧Twitter）で配信しています。

https://twitter.com/minato_azabu1

各支所では、地域情報紙（情報誌）

- 芝地区総合支所「しばタグ」
- 麻布地区総合支所「ザ・AZABU」
- 赤坂地区総合支所「MYタウン赤坂・青山」
- 高輪地区総合支所「みなとっぷ」
- 芝浦港南地区総合支所「べいあっぷ」

を定期的に発行しております。支所内各戸配布のほか、港区立図書館（高輪図書館分室を除く）・各いきいきプラザで閲覧可能です。

ザ・AZABU

●配布設置場所ご案内
六本木一丁目、六本木、広尾、麻布十番、赤羽橋の各地下鉄の駅、ちぃばす車内、港区立図書館（高輪図書館分室を除く）、各いきいきプラザ、麻布区民センター、麻布地区総合支所、港区観光インフォメーションセンター等

●本紙掲載の記事・写真・イラストの無断転載を禁じます。

Staff
飯泉千種　冨田弥生
井上まゆみ　奈良美扶
井口真莉奈　畑中みな子
おおばまりか　樋口政則
加生武秀　武藤佳菜
加生美佐保　堀内明子
佐藤正子　堀切道子
高柳由紀子　八巻綾子
田中亜紀　Mai S.
田中康寛　Sumiko

編集後記

私がザ・AZABUでドキドキしながら最初に書いたのがこの編集後記でした。あれから8年、ザ・AZABUは今も変わらない熱量で麻布の魅力を発信し続けています。

紙面をめくると遥か遠い国を身近に感じたり、見落としてしまいそうな地域の情報を知ることができたり、今では見ることのできない昔の麻布を知ることができたりと、編集委員としても、一読者としても毎号驚きと学びの連続です。

これからも、このワクワクを読者の皆さんと分かち合えたら幸いです。（堀内 明子）

「みなとコール」は暮らしの疑問にまとめてお答えします！

区役所のサービスや施設案内、催し情報など、お気軽に問合せください。
年中無休／午前8時～午後8時　※英語での対応もいたします。

電　話／03-5472-3710　FAX／03-5777-8752
お問合せフォーム／https://www.city.minato.tokyo.jp/kouchou/kuse/kocho/iken/form.html

"Minato Call" information service
Minato call is a city information service, available in English every day from 8a.m.–8p.m.

Minato Call: Tel: 03-5472-3710; Fax: 03-5777-8752;
Inquiry submission form: https://www.city.minato.tokyo.jp/kouchou/kuse/kocho/iken/form-inquiry.html